

# 岩手農大 同窓会会報



第 30 号  
令和 5 年  
3 月 1 日

【発行・編集】岩手県立農業大学校同窓会 岩手県胆沢郡金ヶ崎町六原蟹子沢 14 TEL 0197-43-2211



## 自給率 100%の可能性

岩手県立農業大学校同窓会

会 長 笹田 昭市

早春の候、同窓会員の皆様には、ご健勝でお過ごしのこととお喜び申し上げます。

新型コロナウイルスも、昨年はいったん収まったかと思われましたが、今年になってまた、増加に転じています。これからは、インフルエンザと同じように、生活の中で定着していくものと思われるので、お互いに気をつけて感染しないようにしたいものです。

昨年の大きな出来事は、ロシアのウクライナへの侵攻でした。今までも、世界的には内戦やテロはありました。しかし、今回のロシアの行動は、一方的に戦争を仕掛け、領土を拡大するものとしか見られません。現在も、まだ収束の動きが見られないばかりか、ヨーロッパの他の国も巻き込んで拡大しないか、心配されます。

この出来事で、世界の食糧事情がクローズアップされました。最近の気候変動により、農業生産が影響を受けている中で、社会変動が起これば、流通的にも大きな影響を受け、食糧を確保できない人々が

出てくる恐れがあります。

日本では、食糧自給率が 30%程度であり、今までは、お金があれば他の国から食料を買ってくればよいという考えでした。しかし、これからは、できる限り食料は自給するという考えに変えていく必要があると思われれます。

耕地面積は少ない日本ですが、作物の栽培には適した、良好で多様な耕地が確保されています。更に、気候的にも四季があり、降水量も豊富で、農耕に適した自然に恵まれています。また、畜産を見ても、優秀な家畜と飼育技術の高さは、海外諸国にはひけをとっていません。確かに農業人口は減ってきていますが、労働力不足を補う、革新的な技術も開発されてきています。

私見では、国内で必要とされる農産物の 60%位は、現在でも確保できると考えております。消費者との連携をとりながら、農産物加工技術の開発と料理の革新を進めていけば、「農産物の自給率 100%」は夢でないと思われれます。



## 同窓会報に寄せて

岩手県立農業大学校

校 長 小原 繁

岩手農大同窓会会員の皆様におかれましては、日頃より本校の教育活動の推進に多大なるご支援とご協力を賜り、深く感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の発生から3年を経過しようとする中、いまだ本質的な対応策は見いだせない状況ではありますが、ウィズコロナ対応を見据え、学生の目標実現に向け、支援に取り組んでいるところであります。

特に、学生のみならず県民の皆様にも楽しみにしていただいている伝統行事となる「農大祭」の開催にあたっては、2年ぶりとあって、在学生に経験者がいないという異例の状況でした。農大祭実行委員長を中心に、学生・教職員などの努力により、一般公開とすることができました。久しぶりとあって、同窓会長をはじめ、多くの県民の方々に来校して頂くことができ、関係者の皆様にあらためて御礼申し上げます。

さて、創立40年余りを経過した本校は、これまで3,000名を超える卒業生を輩出し、県内外において様々な立場で活躍されておりますが、ここ数年、入学者数の定員割れが続いている状況にあります。

本校入学者の傾向について申し上げますと、非農家出身がほぼ半数、また、非農業系高校出身が約3割となっており、自家就農に向けた農家子弟の割合は減少傾向にあります。このため、卒業生の今後の



鹿児島県で10月に開催された、第12回全国和牛能力共進会へチャレンジ

農業への関り方としては、自家就農のほか、農業法人などへの雇用就農という選択が拡大しており、農業を「家業」ではなく、「職業」として選択する学生が数多く見られます。

また、農業は「きつい、汚い、危険」の3Kのイメージを持つ方がおりますが、最近の学生はそれほどネガティブなイメージを持っておらず、むしろ「かっこいい、稼げる、自分の時間が持てる」など、ポジティブにとらえる傾向が窺われます。良いか悪いかは別として、農業に接する機会が少ない環境で育つことで、農業に対する先入観のない学生が多くなっているように感じております。

こうした、農業に対するイメージが変化し始めているのに、なぜ、入学希望者が増えないのか、少子化の進行により高校生の絶対数の減少が主たる要因ではありますが、職業として農業に魅力を感じる高校生などがある中で、もっと本校の魅力や有益な情報を、幅広く提供する努力が不十分ではないかと日々反省するところであります。

しかしながら、職員だけの力では不十分と感じざるを得ず、同窓会会員の皆様からの力強いご支援・ご協力が必要であります。日々の学生の活動についてSNS（岩手農大HP、農大FB）で発信しておりますので、まずはご覧いただき、在校生の活動にコメントしていただくなど、本校のPRにご協力をお願いいたします。

結びに、同窓会の益々のご発展と会員の皆様のご健勝を祈念申し上げ、挨拶といたします。



農大HP



農大FB

- 新たな旅立ちにあたり -

## 今春卒業し、同窓生の仲間入りをする学生からの寄稿



### 農大の2年間

農産経営科2年 大槻 圭徹

私は、水稻栽培を学びました。入学当初は、農業の知識が少ないことや寮生活に不安がありました。先生方や先輩、同級生、後輩に助けていただいたおかげで、農業の知識を身につけることや楽しい寮生活を送ることができました。

卒業研究では、ドローンによる直播栽培について取り組み、より楽しく水稻栽培を学ぶことができました。

お世話になった多くの方々との出会いに感謝し、学んだことを活かせるようにしていきます。



### 農大で生活した「これまで」と卒業後の「これから」について

農産経営科2年 金 祥澄

私は、実習のほか、事例研究や加工実習、国際農業の授業を通じて、様々な農業を学ぶことができました。

卒業研究では、苗箱全量施肥栽培と疎植栽培の組合せについて検討しました。

また、自治会役員の会計係として皆の意見を聞き、寮の運営に係わるなど、役員にならなければ知らなかったことを学ぶことができました。

卒業後は、自家の農業を受け継ぎ、一農業者として働き、さらに農業について学びを深めていきたいと思っています。



### 農業大学校で学んだこと

野菜経営科2年 菊地 啓太郎

私は、入学してから実習や授業、派遣実習などを通じて、農業経営の大変さを学ぶことができました。そして、水稻農家でのアルバイトを通じて、自分自身の集中力向上や、目上の方との関わり方など、人間性も学ぶことができました。

卒業後の進路は、岩手県農業共済組合に内定をいただきました。農業共済は、農業経営に大きく関わる部分があると思うので、農家の方々に安心感を与えられる人材になれるよう、日々精進していきたいです。



### 充実した2年間

野菜経営科2年 坂野 恵慈

私は、実習や卒業研究、事例研究などを通じて、野菜の知識や技術を学ぶことができました。特に卒業研究では、自ら選定した課題の解決に向け、先生方やクラスの仲間達に協力していただきながら栽培管理をしました。ここで得たことは、私の将来に必ず役に立つと思いますし、活かしていきます。

卒業後は、自家就農で親と共に農業をしながら、いずれは独立して経営したいと考えています。

地元で作物を供給し、地元の問題解決に励み、地元で貢献できる存在になりたいと思っています。



### 農大で学んだことを生かして

果樹経営科2年 亀井 彩花

私は、4月からJAの職員として働きます。農業大学校で学んだことを生かし、JA職員として岩手県の農業を支えていきたいと思っています。農業大学校での2年間は、長いようで短く、あっという間でした。寮生活などを通じて、たくさんの人と交流するなど、貴重な経験を積むことができました。また、実習や座学、事例研究を通じて、加工、流通、販売、経営について学ぶことができました。今後は、知識、技術、取得できた資格を活用していきたいです。



### 多くの人々を 農業で支えて行きます

果樹経営科2年 高橋 重哉

私は、米とりんごを栽培する農家の出身です。現在も、休日は家の農作業の手伝いをしながら農業について学んでいます。

私は岩手花巻農協への就職が内定しており、4月からは、組合の職員として農業に携わる仕事をします。仕事を通じて、農業の知識を高めながら、消費者や生産者など、多くの人々を農業で支えられるように、仕事に励みたいと思っています。



## 2年間をとおして

花き経営科 2年 川内 梨渚

私は、高校から農業を学び、花について、もっと深く勉強したいと思い、花き経営科に入学しました。農大では、ほ場での実習や事例研究など、実践的な学びを得ることができ、2年間があつという間に感じるほど、充実した日々でした。

卒業後は、ベルグアース株式会社に就職します。これから社会人として生きていくために農大で得た知識と技術はもちろん、何事も諦めない根気と、新たな事に挑戦する勇気を大切にしていきたいです。



## 2年間の成果とこれから

花き経営科 2年 吉田 詩音

私は、幼い頃から花に興味があり、綺麗な花を育てたいと思い、入学しました。農大では、今までは触れられなかった花を栽培することができ、多くの知識と技術を身に付けることができました。フラワーデザインでは、全国大会に向け、毎日遅い時間まで練習を重ね、とても貴重な体験をすることができました。

卒業後は、花巻のベルグアース株式会社に就職します。学んだことを生かし、全力で貢献できるよう頑張りたいです。



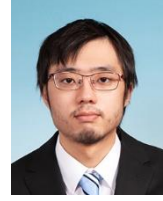
## 夢に向けて

酪農経営科 2年 渡辺 蓮

私は、乳牛を約60頭飼養する酪農家である実家に就農します。

私の夢は共進会で活躍し、乳量も出る牛を作り、人間も牛も心にゆとりを持った経営をすることです。そのため、現在の経営を見直して、牛が好む環境や作業効率を考えた牛舎にしたいと思います。

また、2年後に行われる北海道全共に向けて、日々牛の改良に力を入れていきたいと思います。そして、祖父の夢である、親子3代で酪農をするという夢を叶えたいです。



## 卒業後について

酪農経営科 2年 堀 智博

私は、農業大学校を卒業後、家業の酪農業に携わり、将来的には、経営継承したいと考えています。

実家では、一日でも早く仕事を覚え、更なる仕事の効率化を目指していきたいと考えています。

具体的には、老朽化している牛舎を改築し、飼料給与などの作業を自動化することで、働きやすい酪農を目指していきたいです。また、実家は、飼料の多くを自給しており、昨今の情勢を考えて、飼料の完全自給を目指してみたいと思います。



## 農大での2年間を終えて

肉畜経営科 2年 大極 春花

私は、家は非農家ですが、高校で牛と出会い、もっと知識を得るために、地元の宮城県を離れて入学しました。

農大生活では、牛好きの仲間達と充実した2年間を過ごすことができました。

卒業後は、一関市にある繁殖牛約3千頭規模の牧場へ就職します。就職先では、農大で学んだ雌牛の受胎率向上技術や、子牛の発育向上技術などを活かして、多くの子牛を生産し、東北の畜産生産基盤の維持・拡大に携わっていきたくと思います。



## 農大での日々

肉畜経営科 2年 遠藤 林

私は、高校から牛に触れ、和牛に関わる仕事に就きたいと思うようになり、入学しました。入学してからは、授業や同級生を通じて和牛の血統や飼養管理技術について知り、奥深さと難しさに戸惑いながらも、学びがいがあり、友人にも恵まれた楽しい日々でした。

卒業後は、奥州地域の和牛繁殖農家に就職します。農大で得られた知識を活かし、肥育農家さんから評価される良い素牛を生産できるようにしていきたいです。

## ◆ 支部だより ◆

## 盛岡支部

## りんご専業農家3代目のチャレンジ

盛岡支部 執筆者：笹田 昭市支部長

盛岡市門で、りんご専業農家の後継者として頑張る吉田重樹さんを紹介します。

門地区は、盛岡市の南東部、北上川の河東で紫波町と隣接しており、昔から三ツ割地区と並んで「盛岡りんご」の産地として有名です。吉田家は、今は亡き祖父の茂雄さんが、1935年に「かどしげ農園」を創業し、りんごの栽培だけでなく直売所も経営されています。

重樹さんは、平成22年に盛岡農業高校を卒業後、農業大学校の果樹経営科に入学されました。卒業後はヤマ一農機販売に就職し、5年間勤務した後、平成29年に就農されています。

現在、父の祐直さん、母の勢津子さん、重樹さんの3人で、りんご栽培面積約4ha、「ふじ」を中心として約20品種を栽培しています。岩手県では珍しく「普通樹」中心の栽培をしています。その理由は、「わい性樹」より品質が良好で、生産量が高く安定しているからとのことです。栽培品種は、「ふじ」が全体の50%を超える他、「きおう」「トキ」「紅いわて」「ジョナゴールド」「シナノゴールド」「ぐんま名月」「青林」「きたろう」などを栽培しています。中でも力を入れているのは、「かどしげゴールド」

(商品名)です。高糖度で蜜入りが良い黄色品種で、祖父の重樹さんが植栽し、正式品種名は不明とのことです。地元テレビでも取り上げられ、人気が出てきているそうです。

また、4年前から7月下旬～9月上旬に「かき氷」の販売も始めました。りんごジュースや果実の原料も自前で調達し、連日売り切れの人気となっています。

「かどしげ農園」の3代目として着実に歩まれている重樹さんの当面の課題はパートナーの発見ではないでしょうか。

吉田重樹さん



## 遠野支部

## 将来の目標を家族経営協定で実践

花巻支部 執筆者：藤原 勝榮支部長

花巻市宮野目に在住、地域農業組織活動や家族経営協定を結んで農業を実践している阿部巧さんを紹介します。

阿部巧さんは、岩手県立農業大学校を平成11年3月に卒業し、すぐに就農しました。

農業大学校に進学を決めたのは、将来は就農すると決めており、稲づくりの将来の方向性を探求したいこと、大型農耕車のけん引免許や、無人ヘリコプターの操縦資格の取得ができることでもありました。

就農後、花巻農業青年クラブに入会、多くの仲間との活動を通して情報や知識を高めることができました。

家族の構成は、両親と本人夫婦、子供さんは一人です。

独身時代に家族経営協定を結んでいましたが、平成27年に結婚、子供も授かり、現状に併せて、親子夫婦4人で計画を立て、巧さんは主に水稲部門、両親は野菜部門と役割分担し、共同経営者として、令和4年に家族経営協定の再構築を図りました。経営規模は、水稲6.5ha、キュウリ0.1ha、ネギ0.5ha主体に、水稲育苗ビニールハウス6棟では、春先に大根、夏はオクラを栽培しています。生産物は、農協への出荷や「焼きプリン大福」で有名な産直・案山子で販売しています。平成18年頃から実施している無人ヘリコプターによる、いもち病とカメムシ防除は、宮野目地域にある3機の無人ヘリコプターを、5名のオペレーターで550haにおよぶ面積を防除すると共に、約400haある特別栽培米の作付け地には、地力増進作物の赤クローバーの種まきを行っています。

地域活動では、昔から伝わる「鹿踊り」を保育園の頃から始め、高校生時代は鹿踊り部での取組、現在は、(春日流上ノ山鹿踊り保存会)メンバー8名の踊り手として、奥様の紋子さんも、他地域の保存会の踊り手として活動しています。また、25才頃から消防団活動に参加し消防団部長を務めるなど地域防災活動に取り組まれています。

農業・農村環境の急激な変化が進む中で、阿部さんの地域ぐるみ農業の実践と共同経営運営は、今後、益々の発展活躍につながるものと確信しました。

阿部 巧さん



## 二戸支部

## 地域産業に就いて

二戸支部 執筆者：小笠原 達也さん

平成8年3月に農業大学校を卒業し、地元にある株式会社松本鶏園に入社しました。会社は、ブロイラーの親鳥を雛から飼育し産卵する直前まで育てる部門、産卵時期を育てて卵を取る部門、集めた卵を孵化させて農場へ出荷する部門、孵化した雛を飼育しブロイラーとして育てる部門があります。

私はこれまでに、育成農場、成鶏農場、孵卵場、ブロイラー農場をとおして勤務してきました。育成農場では制限給餌の難しさ、成鶏農場ではストレスを与えない育て方、孵卵場では衛生面の重要性、ブロイラー農場では瞬間的な管理の仕方など、それぞれに重要なポイントがあり、学ぶことができました。

その経験をもとに、令和2年に会社を退社し、両親の経営するブロイラー農場に勤めています。規模は4棟で31,400羽を飼育できる鶏舎で、年間約5.2回転の出荷をしています。会社での経験はあっても同じようにはいかないことがあり、これが生き物の難しさなのかなと思っています。

現在は、親戚の農場を譲り受けて規模を拡大し、9棟で69,700羽の鶏舎を、両親と妻の4人で経営しています。

食鳥の業界でも、飼料の高騰や鳥インフルエンザなど大変なことがらも様々ありますが、日々の作業を丁寧にこなし、質の良い鶏を育てられるよう、努めていきたいと思っています。

仕事外では、地元に戻って来てから九戸村4Hクラブに加入しました。クラブでは、地域の奉仕活動や近隣地域のクラブ員との交流など活動内容も様々で、楽しく多くの経験をさせて頂き、その中で会長も務めさせて頂きました。

地元に戻り20数年経ちますが、私は日々を楽しく過ごせるように、笑顔で目の前のことにひとつひとつ向かっていきたいと思っています。



## 全国プロジェクト発表会で優良賞を受賞

全国農業大学校等プロジェクト発表会・意見交換会が、滝野川会館（東京都北区）で、2月7～8日に開催されました。本校からは、「意見発表部門」で東日本大会最優秀賞を受賞し、全国大会に推薦された果樹経営科2年の小野寺拓真さんが出場しました。

小野寺さんは、「りんご栽培5代目の私がすること」と題して、今まで父親達先代が行ってきた経営の素晴らしさと、更に経営を発展させるため、就農後自分が取り組むことについて熱く語りました。審査の結果、見事優良賞を受賞しました。



審査員の厳しい質問にも、しっかり回答

## ★森山CUP第25回親善野球大会で優勝！



農大野球部が、金ヶ崎町の森山球場で7月23日に開催された「森山CUP第25回親善野球大会」に出場し、見事に優勝しました。

この大会は、金ヶ崎・北上地区の社会人野球チーム6チームがトーナメント方式で対戦し、農大野球部は2年生6名、1年生5名の計11名で出場しました。出場に向けては、放課後に暗くなるまで練習をしました。

大会当日は、目立ったエラーもなく、ピッチャーの継投もうまくいき、メンバーが一丸となって優勝という結果を残すことができました。

# 「2022 農大祭」 2年ぶりの一般公開！！



「2022 農大祭」は、「“守”～農業の未来～」をテーマに、10月29～30日の2日間開催しました。

1日目は、一般公開とし、コロナ対策をしながら模擬店を3年ぶりに行ったほか、体育館には、日頃の学習成果をパネルなどで展示しました。当日は天候に恵まれ、多くの来場客が訪れ、行列が途切れず、ひっきりなしの接客を求められた模擬店もあり、大盛況となりました。

学生は、1日目は、おもてなしに徹しましたが、2日目は、自らが楽しめるよう、普段は訪れない他の経営科の現場教室を訪問する経営科間交流や、農大産畜産物を堪能する昼食会（BBQ）、「ビンゴ大会」、「カラオケ大会」を行い、大いに楽しむことができたようです。

本校学生の学習成果や、農大産農畜産物のPRができたほか、学生間交流が行われ、有意義なイベントとなりました。



### 【農産経営科】

来客者待望の3年振りの餅つき！



### 【野菜経営科】

野菜販売恒例の大行列！



### 【果樹経営科】

果実も加工品も飛ぶように！



### 【花き経営科】

フラワーアレンジメント体験大好評！



### 【酪農経営科】

ピザが大好評でうれしい悲鳴！



### 【肉畜経営科】

農大産短角牛肉の販売は大好評！

## ★県政策提案コンテスト Wildcup2022 で学生グループ最優秀賞を受賞！



「岩手県農林水産部政策提案型調査研究コンテスト Wild Cup 2022」が、8月9日～10日に盛岡市で開催されました。

本校からは、肉畜経営科と酪農経営科の1年生が参加し、肉畜経営科の発表が、「大学生グループ部門」で最優秀賞を受賞しました。

受賞タイトルは、「やっちゃん畜産～岩手の和牛改造計画～」で、赤身肉の生産に向けた取組を発表しました。

## 令和4年度元気の出る農業セミナー

標記セミナーを、11月2日に本校大教室で開催しました。

これは、農業や農政の現状と課題を学び、今後の地域農業や農村振興について、理解を深めることを目的としたものです。

八幡平市の田村真理子氏からは、就農後、どのように行動を起こして地域に溶け込み、仲間の輪を広げてきたか、またSNSなどを活用し「農業＝男性社会」という農業に対するイメージを大きく変えようとする取組、一関市で和牛肥育に取り組む千葉大氏からは、家族経営の内容をしっかりと把握することや、地域や自らの課題解決の中での仲間づくりの大切さなどについて、それぞれ熱い想いと助言をいただきました。

本セミナーは、卒業後の進路に大変参考となる、まさに「元気の出る」学習機会となりました。



## 進路応援ゼミ

本校卒業生を招き、11月18日（金）に「進路応援ゼミ」を開催しました。

これは、在学時の取組や現在の業務内容に関する話題を提供いただき、将来の進路決定に向けて学生の課題を引き出して、具体的な活動に結び付けることを目的としたものです。

話題提供者として、小野高雅之氏（農産経営科卒、(株)西部開発農産）、船山直氏（花き経営科卒、(株)馬場園芸）、栗畑潤氏（酪農経営科卒、JA新しいわて）の3名からお話を伺いました。学生から「現在の就職先を選択した理由」「就職・就農する際に有用な資格」など多くの質問があり、丁寧に答えていただきました。

終了後は「在学中に可能な限り資格を取得したい」「インターンシップを体験したい」などの前向きな声が聞こえ、進路選択に前向きに活動するきっかけとなったようです。



## 令和5年3月卒業予定者の進路状況

令和5年2月14日現在

区分	進路先
就農 9名	県内：八幡平市、花巻市、一関市、洋野町、岩手町 県外：秋田県（横手市、大潟村）、宮城県：（大崎市、富谷市）
雇用就農 19名	（有）小比類巻家畜診療サービス、北日本JA畜産（株）藤沢農場、（株）あんばい牧場、ベルグアース（株）、（株）西部開発農産、（株）小形畜産、（株）COWROAD、江刺スターファーム（株）、（株）岩手パイオニア牧場、よこみちファーム（株）、（株）耕野、（有）ファーム菅久、（株）一苺一笑、ベジ・ドリーム栗原、（一社）家畜改良事業団盛岡種雄牛センター、個人法人（宮城県栗原市）
農業団体 8名	NOSAI 岩手、JA 岩手ふるさと、JA いわて花巻、JA いわて平泉、JA 江刺、JA 新しいわて、JA 秋田ふるさと
農業関連 2名	ヤンマーアグリジャパン（株）東北支社、（株）秋田クボタ
一般企業 4名	（株）キタカミデリカ、（株）富士シティオ、（株）エフビー、（株）、（有）小専商店
公務員等 2名	久慈市、（独法）家畜改良センター、
研修 1名	レスポアールハーゲン牧場（北海道）
進学 2名	秋田県立大学生物資源科学部、新潟大学農学部